

令和7年度 安全管理優良受注者 安全管理事例集

目 次

株式会社 曙建設		P. 1
射水工業 株式会社		P. 2
大高建設 株式会社		P. 3
小柳建設 株式会社		P. 4
株式会社 加藤組		P. 5
ショーボンド建設 株式会社		P. 6
世紀東急工業 株式会社		P. 7
大成ロテック 株式会社		P. 8
株式会社 谷村建設		P. 9
中信建設 株式会社		P.10
砺波工業 株式会社		P.11
株式会社 廣瀬		P.13
株式会社 北都組		P.14
本間道路 株式会社		P.15
真柄建設 株式会社		P.16

(50 音順)

令和7年 9月24日
北陸地方整備局 企画部

株式会社 曙建設

1. 会社としての安全管理重点事項

工事連絡会の会長として、高い地形に囲まれた狭いヤード内で錯綜した5現場を無事故・無災害、クレーム0で完工するため、現場ルールを構築し、地元関係者とのコミュニケーションを取りながら、現場内外の安全管理に努めた。



工事連絡会

2. 現場等における具体的な取組事例

①塩殿遊水地整備内の安全管理上の課題

工事中道路の現場ルール策定と、出水期施工による資機材の避難方法が課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

工事中道路渋滞緩和の現場ルール構築

- ・現場は道幅が4mの市道を使用するため、大型車のすれ違いが出来ないことから、出入口を設定した。トレーラーは逆走となるため搬入・搬出時間を定め、工事関係者にメールを配信、また地元一般車両とバッティングしないように誘導員を配置した。

避難時間短縮策の実施

- ・現場での退避手順の効率化と退避時間短縮を図るため、発電機と冷房付休憩所・トイレを常時トラックの荷台に載せることで、速やかな退避を可能とした。



工事中道路



トラック車載状況

3. その他工夫している点

①現場の水位確認は5現場共有の水位計とし、現場稼働中は現地の水位計を目視で確認、夜間や休日はインターネットにより十日町（姿）と立ヶ花他上流域の水位情報を収集し、警戒・退避水位の確認を行った。

②休日でも、信濃川本川・現場内の状況確認が出来るよう仮締め切工の天端に監視カメラを設置した。



現場共有水位計



監視カメラ

射水工業 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理計画の徹底

人命尊重の基本理念を基に当社として安全衛生管理計画を定め、全従業員の安全と健康を目的とした働きやすい作業環境の構築を図る。

②安全衛生管理体制の構築

社内役員を含めた店社安全パトロールにより各現場の安全対策が遂行されているかチェックリストにより確認して、是正が生じた場合は即改善を行う事で労働災害の防止に努めている。

③安全衛生活動の実施

工事に先立ち、社内役員を含めた施工検討会を開催して施工計画に反映させる。また、隔週毎に社内の工事全体会議を開催して各現場における問題点の共有と改善策のフォローアップ体制を確立する事で会社全体で労働災害防止に努めている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①庄川・大門護岸その10外工事における安全管理上の課題

本工事は、庄川の低水護岸工事であり、主工事となる護岸工事については、非出水期間(10月)からの施工となる。その中でも法覆護岸にあたる石張工事は厳冬期に行う事から、防寒対策は基より人力で重量物(玉石)を扱う作業員への安全対策を行う必要があった。

②課題に対して現場で行った安全対策

当社の若手社員を含めた石張作業に従事する全ての作業員に実際の施工方法を周知する事で危険作業や注意事項について共通の認識を得る事ができた。また、玉石による手元挟まれ事故対策として耐圧グローブ(鉄板式)を使用する事で無事故で完成できた。



施工方法の周知教育



耐圧グローブ



4Dシミュレーションによる工程確認

3. その他工夫している点

新規で入場される工事関係者全員に現場の3Dモデルと4Dシミュレーションにより作業工程や手順の確認を行った。また、施工場所においては、完成形AR投影を行い現場での作業内容確認を行う事で安全性と効率的な作業に努めた。

大高建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全最優先の理念

当社において最も大切にしている事は『安全』である。安全には近道は無く、日々の活動の積み重ねであり、今後も安全を最優先する企業として絶え間ない努力を続けていき、社一体となった継続的な安全衛生水準の向上を目指す。

②コスモスの構築

当社は 2019 年 4 月、建設業労働災害防止協会が推進するコンパクトコスモスを全国第 1 号で認定を受け、2022 年にコスモス認定に移行した。

③コスモスの運用・実施

コスモスは建設事業場のシステム運用の負担を軽減した労働安全マネジメントシステムであり、社全体で効果的・効率的に運用している。



2. 現場等における具体的な取組事例

①R4－6小黒部谷第2号砂防堰堤工事における安全管理上の課題

黒部川支川の小黒部谷川での砂防事業は、急峻で狭隘な地形であり、施工箇所上流域には斜面崩壊地が点在している厳しい自然環境である。安全衛生管理には地域特性や自然状況を的確に把握し、最新技術や多くの経験を駆使し、安全衛生管理の充実を図り、効果的に運用することが課題である。

②課題に対して現場で行った代表的な安全対策

リアルタイム気象情報閲覧システムを活用し、デジタルサイネージによる見える化やメール配信により、最新情報を従事者全員が共有できるよう現場状況に合わせて工夫し、即座に作業体制に反映するよう効果的に活用した。【写真-1】



また、土石流の前兆現象である急激な水位低下に対応する土石流警報システム(超音波式)と併用することにより、さらなる安全性の向上を図り、効果的な運用を実施した。【写真-2】



3. その他工夫している点

- ① 地上型レーザースキャナ・UAVによる写真測量を日常の施工管理業務にも活用し、効率化、省力化を図り、作業方法等の見直しすることにより施工中の安全性向上にも繋げた。
- ② キャリア通信のない山間僻地であるため、衛星ブロードバンド(スターリンク)にて通信システムを構築し、施工箇所及び周辺の要所にウェブカメラ設置した。本社・現場・スマートフォンなどでリアルタイム映像を、悪天候時や施工技術・施工方法の検討時など多くの場面で共有し、本社と現場の連携を強化した。
- ③ 店社安全パトロールのほか、労働安全衛生コンサルタント安全パトロールの実施、女性社員による違った目線での衛生管理パトロールを実施し改善に繋げた。

小柳建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理システムの構築

社内安全衛生管理規程及び建設業労働安全衛生マネジメントシステム(COHSMS)に準拠した「労働安全衛生マニュアル」を整備し、現場の労働災害防止、事故発生リスク低減の手順を明確に定めている。

②安全衛生管理体制の構築

安全衛生管理計画に基づいて安全衛生活動を実施し、労働安全衛生委員会を毎月開催している。また、施工前に関連部署が参加した社内施工検討会の実施により、現場課題の抽出、検討を行っている。

③店社安全パトロール体制の構築

店社安全パトロールを月4回の頻度で実施し、その他にも役員パトロールや女性職員を含む衛生パトロールの実施など、様々な視点や立場から現場の安全・衛生対策を確認し、組織的な支援を行っている。

2. 現場等における具体的な取組事例

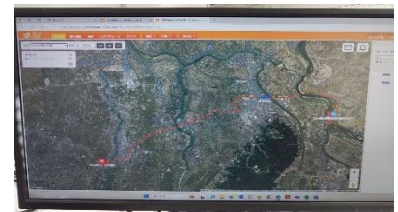
①R6 阿賀野川樹木伐採工事における安全管理上の課題

本工事は、阿賀野川高水敷に繁茂した樹木を伐採、搬出する工事である。伐採箇所は河川堆積土に覆われ、軟弱な地盤であった。また施工時期は冬期であり、降雪の多い中、多くの伐木の搬出を行うため伐木搬出時の交通対策が課題となった。

②課題に対して現場で行った安全対策

川岸の砂利を活用した工事用道路の整備の提案、実施や車両運行システム(SolutionLinkageMobile)の導入、店社抜き打ち過積載調査など実施し、安全に伐木搬出を完了した。

さらに、伐採作業では作業エリアや通路にのぼり旗や点滅灯を設置により視認性向上を図り、レーザー距離計による重機隔離距離の確認等実施し、重機の転倒や接触事故防止に努め、事故やトラブルなく工事を完了した。



車両運行管理システム



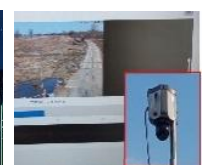
重機隔離距離確認

3. その他工夫している点

○現場情報共有システム「All-sighte」や現場内に録画機能付き監視カメラ「G-cam」等のIT技術を積極的に取り入れ、常に現場と店社が一体となり、施工状況及び安全活動の把握、降雪状況や盗難防止に努めた。



All-sighte



G-cam

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理体制の構築

安全衛生委員会を設置し、「一人一人が自分の身を守るため何をすべきかよく考えて行動する！」の基本方針に基づいた年間の安全衛生管理活動計画を作成。「労使が一丸となって労働災害のない安全な職場づくりに取り組む」ことを目標としている。

②店社安全パトロールの実施

上記安全衛生計画を基に、社長を始めとした専務・常務等の安全委員が月2回以上の店社安全パトロールを行い、その結果報告等の資料は全社員に周知・情報共有を図っている。

③安全大会の実施

安全大会では、安全衛生活動に貢献した社員を表彰し、また外部講師による安全講話を聴くなど、社員一人一人の安全への意識高揚を図っている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①藤沢川第3号砂防堰堤その3工事における安全管理上の課題

本工事は、山間部で溪相は岩が切り立った山岳であり熟練オペレーターを必要とする。また、上流は県境まで広範囲の降雨が流下し増水による被災の多い現場であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

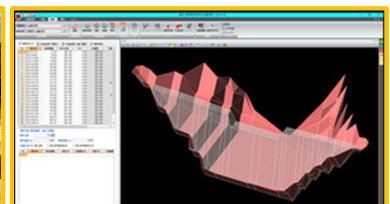
1、実績の無いブレイカー掘削によるICT施工（MG）を実施、急傾斜地での丁張設置や掘削途中の管理作業を省力化し転落災害や飛石、重機との接触事故を未然に防いだ。

複雑な形状でも正確に掘削ができ、若手のオペレーターでも活躍の場が広がる。

2、気象観測をデジタル化しWEBカメラと併用した水位観測を行うことで無人化を図り、大雨による現場退避を迅速に行い急激な増水による事故や監視中の二次災害を防いだ。



[気象観測計付きWEBカメラ]



[マシンガイダンスによるICT施工]

3. その他工夫している点

現場は不感地帯であったが、低軌道周回衛星通信サービスにてWi-Fi通信環境を現場内に整えることで緊急連絡体制の迅速化を図り、画像を確認しながら現場との打ち合わせをすることで狭隘な工事用道路の移動による事故リスクを低減できた。

また、家族や友人との連絡も可能となることから、不感地帯特有のつながらない不安を取り除くことは若手の人材確保につながると思います。



ショーボンド建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①重大災害・事故ゼロ

リスクアセスメントの確実な実施。施工前、施工中検討会を充実させ、すべてのリスクの抽出を行う。

②より高いレベルの安全文化の実現

「安全文化創生」のためのアクションプランの周知と教育。安全文化レベルを依存型から相互啓発型への進化。

③安全衛生管理体制の確立

店社と作業所、協力会社が一体となつての労働災害の防止と快適な職場環境の形成。足場や重量物取扱い作業における手順会議を通じて協力会社からの意見を尊重することで労働災害を防止する。



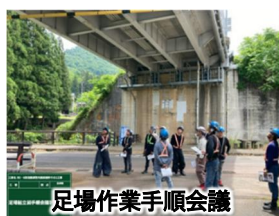
2. 現場等における具体的な取組事例

①R5・6 新潟国道管内橋梁補修その2工事における安全管理上の課題

本工事は、阿賀野川に架かる国道49号白崎橋において、吊足場を設置し橋梁補修を行ったものである。足場組立解体作業時の墜落・転落事故防止を重点目標として、現場条件に則した安全な作業計画の立案とその確実な実施が課題であった。

②課題に対して現場で行った安全対策

- ・足場施工前に2次下請を含めた作業員全員で手順周知会を実施し、現場特有の条件と危険箇所をまとめたハザードマップを活用してリスクの抽出を行い、リスクに応じた安全な足場組立施工方法の確立と作業員の相互理解の強化を図った。
- ・作業場所にウェアラブルカメラを設置し、作業状況を常に現場事務所や、会社の安全管理部門から遠隔で確認できるようにして作業監視の多重化を行い、作業計画の実施確認と指導を行った。また、見られている意識を持つことで現場の安全意識の向上を図った。



足場作業手順会議



ハザードマップ



ウェアラブルカメラ設置



社内モニタリング

見る【目】を増やして危険の【芽】を摘む

3. その他工夫している点

- ・ショーボンドオリジナルの現場点検アプリ“SB プラス”によりスマートフォンやタブレット端末で点検対象に設置したQRコードを実機から読み込むことで点検の形骸化防止を行っている。



点検アプリ“SB プラス”

世紀東急工業 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①的確な安全指示の伝達

現場朝礼時には、平面図、作業手順書、車両系建設機械作業計画書等を用いて作業員全員で理解するように実施する。

②ヒューマンエラーの低減

過去のヒヤリハット事例を活用した作業安全指示を行い、指示に基づいた危険予知活動を関係者全員に周知して災害を防止する。

③確認動作の徹底

「1秒ルール」「指差呼称」「コメンタリー運転」の徹底指導

2. 現場等における具体的な取組事例

①直江津B P安江地区情報ボックス整備その2 工事における安全管理上の課題

本工事は直江津バイパス、三ツ屋交差点から下源入東交差点（下り）間において、渋滞緩和対策を目的とした三車線化工事を行った。当該箇所は交通量が非常に多いため、工事車両が減速して現場に進入する際、一般車両との追突事故が懸念された。また、既存歩道を施工する際は、近隣に小中学校、商業施設があり、歩行者も多いことから、常時歩行者通路を確保する必要があった。

②課題に対して現場で行った安全対策

- ・一般車の追突事故防止として、電光標識、注意喚起看板を増設配置した。
- ・既存歩道を車道にする際は、歩行者の少ない夜間施工とし、マウンドアップの段差を日々アスファルト合材で摺付を行い、日中は通常通り歩道として利用できるようにした。



電光標識



注意喚起看板



三車線化完了



3. その他工夫している点

- ・墜落防止対策としてスタンプシートの設置、また、重機の接触防止対策として立入禁止明示板の設置、後方監視カメラ搭載型・緊急停止装置付きバックホウの使用を実施した。



スタンプシート



立入禁止明示板



後方監視カメラ・緊急停止装置付きバックホウ



大成ロテック 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

① 重機と人の分離作業の徹底

法令遵守：関連法令をしっかりと遵守し、安全な作業環境を確保します。

② 架空線、地下埋設物、地上構造物損傷の撲滅

試掘の実施、見える化、公共物近接作業実施要領の遵守で公共物への損傷を無くします。

③ 人身公衆災害、人身交通事故の撲滅

交通安全に関する教育を行い、事故を防ぎます。公衆災害を防ぐため、現場での教育徹底。

④ 休業を伴う熱中症災害撲滅

熱中症対策の早期実施、早急病院搬送の徹底で熱中症災害を防ぎます。

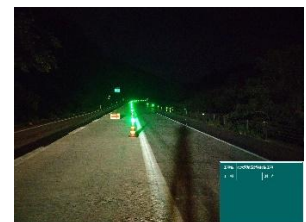
2. 現場等における具体的な取組事例

① R5 大沢地区舗装修繕工事における安全管理上の課題

本工事は、一般国道7号において、終日片側交互通行を伴う、コンクリート舗装の舗装修繕工事であった。終日片側交互通行であり、山間地域で道路がカーブしていることから、国道利用者の安全走行の確保が重要課題となった。

② 課題に対して現場で行った安全対策

- ・ BIM/CIM による交通規制方法のモデル化とシミュレーションを行うことで、現場関係者全員が適切な交通規制方法を確認した。
- ・ 現場関係者全員で検討し作製した注意喚起看板の設置により、国道利用者に注意を促すことで、交通規制付近での追突事故防止を行った。
- ・ 同時通信制点滅ライトを約 10m 間隔で設置することにより、夜間の走行車線を明確に表示することで交通事故防止を行った。



3. その他工夫している点

- ・ 類似工事における、外部講師による安全教育訓練を実施。
- ・ バックホウ、ローラーに自動停止装置を設置し、重機と作業員の接触時事故防止を図った。
- ・ 安全教育に VR を用いた事故疑似体験教育を行った。
- ・ 頻繁にクマ出没の情報があつたことから、誘導員の安全確保のため、「熊鈴」「熊撃退スプレー」を配布し、安全教育を行った。
- ・ お盆期間前迄の完了と生産性の向上を目標に、切削機による舗装版撤去・路盤撤去を行うことで撤去時の飛散もなく、施工期間（規制期間）を 5 日間短縮して、目標を達成した。

株式会社 谷村建設

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生管理活動の基本方針

快適な職場環境を作り上げ、事故を職場から永遠に排除するため、労働安全衛生活動を常に見直し、関係法令を遵守し、安全で・働きやすく・健康的で・明るい職場づくりに努める。

②重点事項

- 1) 墜落・転落、倒壊・崩壊、建設機械災害等の三大災害の撲滅を図る。
- 2) リスクアセスメントを徹底して行い、KTC(決められたことを手を抜かないでチャントやる)活動を実践する。
- 3) 安全一声運動を徹底して実践し、予防に結びつける。

③会社-現場間での安全管理体制の構築

現場における安全上の課題を着工前に部門管理者・安全環境部・技術部長を交えた「施工方針会議」にて洗い出して、その対策を立てる。施工中は履行状況を部門長・安全環境部がパトロールで確認し、適宜現場での助言・指導へ結びつける。

2. 現場等における具体的な取組事例

①令和4・5年度向山洞門補修その2工事における安全管理上の課題

本工事は、塩害や波浪により老朽化が進行した洞門構造物の内、特に損傷の著しい個所の鋼・コンクリート構造物の補修を行うものであった。

洞門内である施工条件から施工期間中は仮設信号機を用いた終日での片側交互通行規制が必須となり、交通規制内での事故が発生した場合には工事車両の出入りが出来なくなるばかりか、一般車両・緊急車両の通行が遮断されてしまう事となる。

この為、本工事においては交通災害防止を第一の課題として取り組んだ。

②課題に対して現場で行った安全対策

終日での片側交互通行規制となる事から、規制区間の両端部に配置していたトイレカーを活用して注意喚起表示を増設し、表示部には反射テープを貼付する事で洞門内での視認性を確保した。

また、規制区間内にはPC及びスマートフォンで閲覧可能な交通監視カメラを設置し、遠隔地でも終日交通状況を確認出来る様にした。



注意喚起表示増設
(夜間視認性の確保)



交通監視カメラ設置

3. その他工夫している点

①鋼構造物補修時に仮受けする支保工の補強(倒壊・転倒防止対策)

②狭小スペースでの鋼材揚重作業にパレット台車(可搬式リフト)の使用

③熱中症対策として冷水循環式のベスト(アイスマンベスト)の支給



支保工の水平連結補強

中信建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①年間安全衛生計画に基づく安全衛生活動の充実

- ・会社及び作業所にリスクアセスメントを定着させ、安全衛生年間計画を作成し、それに基づき安全衛生活動を実施する。

②安全衛生管理体制の充実

- ・各管理職・監督職が安全衛生上の職務・宣言・責任を明確化にし、職務を推進する。

③安全意識高揚のための安全衛生教育の充実

- ・月1回以上の店社パトロールにおいて、作業現場の実態を把握し、安全設備・安全作業について教育指導を行い、全体朝礼時に各現場から発表するかたちで水平展開している。
- ・安全大会等による社員協力会社の安全意識の高揚を高めるとともに、災害事例検討会・ヒヤリハット体験検討会を定期的に実施している。

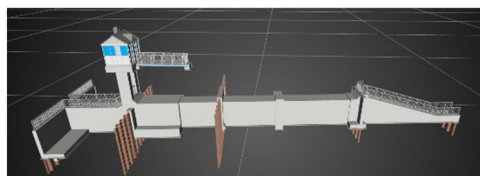
2. 現場等における具体的な取組事例

①令和4・5・6年度埴生遊水地排水樋門工事における安全管理上の課題

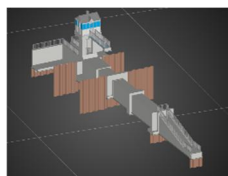
- Ⅰ. 本工事は排水樋門を新設する工事で、延長が長く形状が複雑であるため、鉄筋・型枠組立・コンクリート打設作業時の安全な足場計画や安全通路の確保が課題となった。
- Ⅱ. 現場への進入道路が、地区住民も利用している堤防道路しかないため、交通事故防止が課題となった。

②課題に対して現場で行った安全対策

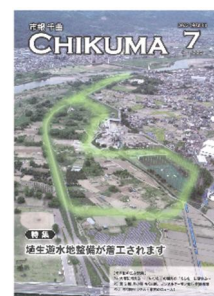
- Ⅰ. B I M / C I M を活用し、構造物を3Dモデル化したうえで足場の施工図を作成した。また着手前に施工業者にも3Dモデルを利用し施工検討会を実施し、リスク管理についても確認した。
- Ⅱ. 千曲市の協力のもと「埴生遊水地工事開始」が広報紙で周知され、堤防道路を利用する地元区にも回覧文書で協力をお願いした。またWEBカメラを設置し通行状況の把握や、大型重機の搬入時は交通誘導員を配置し対応した。



排水樋門 3D モデル



事前検討会



千曲市 市報

3. その他工夫している点

樋門工事は「抜け止め防止機能付き Iq システム」を利用し足場を組立てた。通常の足場の通路における高さ（階高）は1.7mに対して1.9mが確保できる。保安帽を着用しても足場にぶつかることなく移動できるので、作業員はもとより、安全パトロールで現場を訪れた関係者にも高評価を得ることができた。



砺波工業 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針

当社は、企業活動に関わる全ての人々の安全を優先し、労働災害の防止を図り、心身ともに健康で快適な職場環境を形成する。

②安全衛生目標

1. 休業4日以上労働災害をゼロとする。
2. 社員の心身の健康の保持増進を図る為にも、法規制順守の観点からも、過重労働者の削減に努める。

③安全衛生活動の実施

年間計画に基づき、安全大会(年1回)、安全衛生委員会(月1回)、店社安全パトロール(各現場月1回)を実施し、現場衛生面を主とした現業以外の女性パトロールも実施して職場環境の改善に努めている。

2. 現場等における具体的な取組事例

①R6 真川上流流木対策工事における安全管理上の課題

本工事は、下流域へ土砂や流木流出抑制のための床固工や護床工の施工を行う工事である。護床工は高さ2.0m、ブロック間隙間は0.5mであり、複数ブロックを同時施工することから、コンクリート打設時に縦横の隙間に転落するリスクがあり、重大事故に繋がる恐れがあった。



②課題に対して現場で行った安全対策

護床ブロックの隙間全体にユニット式足場を設置することを立案し、安全な作業床を確保することにより転落防止対策を実施し無事故で工事を完成した。また、足場をユニット式にすることにより、設置・撤去の省人化を図り、安全性向上及び生産性向上に努めた。



3. その他工夫している点

①現場に観測計を設置し、記録した気象データをクラウド上及び屋外用大型サイネージに表示することで、リアルタイムに作業箇所から確認できる体制を整備し、作業員を含め情報共有を行った。



②現場内に録画機能付きWeb監視カメラを設置し、PCやスマートフォンにて現場状況や河川状態を24時間監視することで、荒天・増水時の現場状況を把握し、即対応できる体制を整えた。



砺波工業 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

①安全衛生方針

当社は、企業活動に関わる全ての人々の安全を優先し、労働災害の防止を図り、心身ともに健康で快適な職場環境を形成する。

②安全衛生目標

1. 休業4日以上労働災害をゼロとする。
2. 社員の心身の健康の保持増進を図る為にも、法規制順守の観点からも、過重労働者の削減に努める。

③安全衛生活動の実施

年間計画に基づき、安全大会(年1回)、安全衛生委員会(月1回)、店社安全パトロール(各現場月1回)実施し、現場衛生面を主とした現業以外の女性パトロールも実施して職場環境の改善に努めている。

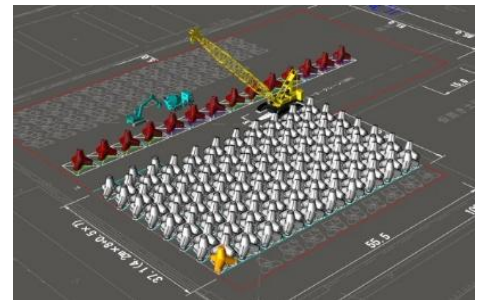
2. 現場等における具体的な取組事例

①伏木富山港(伏木地区)防波堤(北)(改良)消波工事(その2)工事における安全管理上の課題

本工事は、40tのテトラポッドを143個製作する工事である。日々の繰り返し作業の中で、特に、テトラポッド転置作業は重量物かつ不安定形状の取り扱いを伴うため、重大災害のリスクが懸念された。

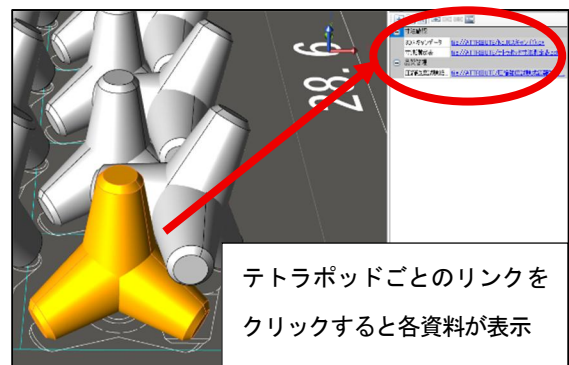
②課題に対して現場で行った安全対策

テトラポッド製作に先立ち、現場全体の3Dモデルを作成し可視化することで、施工ヤード内における作業環境の事前把握とリスクの洗い出しを行った。また、毎朝の朝礼時に当日のテトラポッド転置作業におけるクローラークレーンの配置、作業方法、作業員の立ち位置及び退避範囲について、視覚的かつ具体的な打合せを実施することで、無事故で工事を完成した。



3. その他工夫している点

安全衛生の一環として、現場技術者の仕事量・精神的ストレス低減を目的とした3Dモデルの活用を試みた。製作したテトラポッドの出来形測定結果や品質試験結果を3Dモデルとリンクさせ、一元管理を行うことにより、必要な情報を迅速に検索でき、業務の効率化を図り、生産性向上に努めた。



株式会社 廣瀬

1. 会社としての安全管理重点事項

①基本方針・重点事項

年度毎に定める安全衛生管理活動計画の『基本方針』『重点目標』に基づき、目配り・気配り・話し合いの推進と6S運動の実施を重点事項とし明るく清潔な職場づくりを目指している。

②社内安全管理体制の構築

毎月、安全衛生委員会及び全社員参加による安全会議の開催を行い、安全意識の高揚に努めており、毎年6月には、協力業者を含め安全大会を開催している。又、工事着手前に検討会を開催し、安全衛生項目の審査を実施している。

③現場パトロールの徹底

現場パトロールを安全品質環境部・土木事業部と個別に実施し、各現場を必ず2回/月以上、また、2回/年の役員パトロールを実施し、現場の安全は基より、6S運動の実践チェックも実施している。

2. 現場等における具体的な取組事例

①本工事における安全管理上の課題

本工事は、市街地での工事であり、施工範囲内が第三者開放範囲と混雑していることに加え、施工範囲内に船着き場が点在していた。また、市発注工事と同箇所での作業が予定されており、第三者災害の防止や混雑作業時の災害防止が課題とされた。

②課題に対して現場で行った安全対策

第三者開放範囲との区別の為、約1kmの区間を柵とのぼり旗にて安全注意喚起を実施し、船着き場関係者の現場出入りの為に安全通路の作成を行った。また、盛土作業におけるダンプトラック走行時は歩行者・車両ともに通行量の多い箇所を走行する為、各車両に任意の危険箇所を通過すると音声警告が流れる装置を各車に配布し、注意喚起を実施した。近隣工事とは1回/月以上の工事連絡会を実施し、また、各協議会等のパトロールに主導的に参加し、指摘事項の改善に努め、工期内に安全に工事を完成させた。



安全通路の設置



音声警告装置

3. その他工夫している点

河川への袋詰玉石設置作業はICTを活用し、水中での設置位置を見える化し、河川に入らず、陸上からの施工を行った。また、増水時の緊急対応として河川監視カメラを設置し、クラウド型の水位計を設置したことでリアルタイムの水位を把握できるようにした。現場にはソーラー発電の車載式休憩所を設置し、増水時の避難体制の確立と熱中症対策の徹底を行った。

株式会社 北都組

1. 会社としての安全管理重点事項

①労働安全衛生法等の関係法令順守

施工計画段階で関係する法令を工事部及び本社安全部で特定し、法令違反のない計画を策定する。また、日々の巡視や店社安全巡視にて法令順守状況を確認する。

②安全・健康確保の意識向上

夏季の施工にあたり、熱中症の予防を徹底する。飲料及び飴、避暑対策等は元請が率先して用意し、休憩についても疲労度にかかわらず定時的かつ小まめに実施させる。

③元請・協力業者が一体となって安全に取り組む

工事開始前に、予定する協力業者を召集し、本工事に対しての法令周知や安全施工に関する意見交換を行い、元請と協力業者が一体となって安全に工事を行う。

2. 現場等における具体的な取組事例

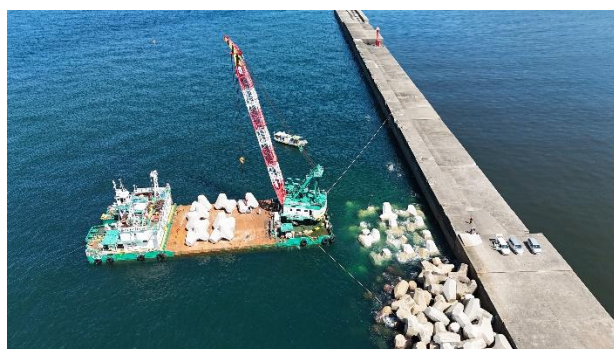
①海上工事における安全管理上の課題

本工事は、能登半島地震発災から間もない工事であったため、余震や津波が発生する可能性が通常よりも高く、海上工事作業中の避難が課題となった。

②課題に対して現場で行った安全対策

作業船は固有の特性から地震が起きた場合、現場から離脱するまでの時間が長くなる。そこで、潜水作業については作業効率等を優先に考えず、避難優先の観点から全て無減圧で減圧時間を必要としない潜水計画とし、地震発生時に速やかに浮上し避難できる計画とした。

また、起重機船等の大型船舶については係船ロープを切断用の工具と共に支給し、地震発生時には、躊躇なく切断し避難できるようにした。これにより作業中はロープを伸ばして係船しているため、解らんにかかる時間を短縮することが可能になった。



左：作業写真

揚錨船でロープを解らんするところを、起重機船内でロープを緩めて切断することにより、避難が早くなる。

3. その他工夫している点

①共通無線の配備

作業船は船団内で無線がつながっていても、異なる船団同士で無線連絡はできないため、元請が共通の IP 無線を支給し、連絡体制の構築を図った。

本間道路 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

- ①目 標：『労働災害の根絶を図る』
- ②スローガン：『身に付けよう基本作業と安全ルール みんなで築こう安全職場』
- ③安全衛生（環境）重点目標
 - 1. 車両系建設機械による災害防止（作業計画書の周知徹底と危険作業の未然防止）
 - 2. 公衆災害の防止（事前調査・確認と現地 KY の徹底）
 - 3. こころと体の健康づくり取組強化（メンタル不調の未然防止と快適な職場づくり）

2. 現場等における具体的な取組事例

①R6長岡国道管内舗装修繕工事における安全管理上の課題

本工事は、国道17号の道路修繕を目的とした車線規制による切削・バレイ工事であった。工事区間沿線では商業施設が立ち並び、枝線からは住宅の出入が多々あるため、当該地域の商業施設及び住民の方々の工事期間及び工事箇所の周知と舗装修繕工事への理解を深めてもらう必要があった。

②課題に対して現場で行った安全対策

本施工開始前に、沿線店舗及び各地区区長への事前説明を行うと共に、大型モニターを現場起点部に設置し、事前に工事予告や規制形態を放映し通行車両への周知を図った。また、舗装工事への理解と関心を深めてもらう事を目的に、インフォメーションセンター（情報館）を現場事務所敷地内に設置し各種見学会や近隣住民憩いの場として活用した。



【サインージ看板】



【動画 QR 公開】



【情報館】

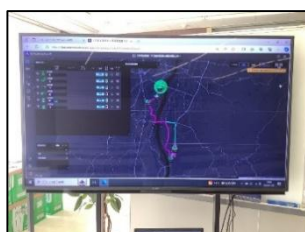


【情報館見学状況】

3. その他工夫している点

- ・運行管理システムを活用し、ダンプトラックの運搬状況管理
- ・女性事務社員による第三者目線の安全パトロールの実施
- ・タッチパネル形式の安全掲示デザイン看板

【車両動態管理システム】



【女性社員安パト】



【デザイン看板】



真柄建設 株式会社

1. 会社としての安全管理重点事項

- ①安全衛生方針・・・社員ならびに協力業者作業員の安全と健康を確保することは、会社が果たすべき社会的責務であることを理念とし、関係者全員が役割と責任を全うし、安全・安心・快適な職場環境の形成と全社一体となった継続的な安全衛生水準の向上を目指します。
- ②社内安全衛生管理体制の構築・・・安全衛生管理実施計画に基づき、月 1 回以上の店社安全パトロール及び全国安全週間における経営者安全パトロールを実施すると共に、安全パトロール結果及び改善報告を全現場に伝達し、水平展開を図っています。
- ③施工検討委員会の実施・・・工事着手前に、各部門長が出席する着工前ミーティング及び施工委員会を開催し、当該工事に関する情報を集約し、類似工事の事例を基に様々な観点から事故を未然に防止する方策について議論しています。

2. 現場等における具体的な取組事例

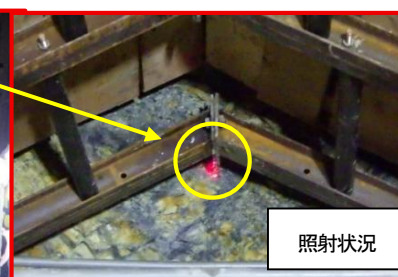
①R3・4・5 甚之助谷地下水排除工事における安全管理上の課題

本工事は、標高 1,650m の甚之助谷において地滑りの主要な原因となる地下水を排出するための排水トンネルを掘削するものである。一般的にトンネル工事は労働災害が発生しやすく、切羽における災害は近年でもたびたび発生している。



②課題に対して現場で行った安全対策

- 1) 掘削方法は全断面掘削の施工であるが、切羽状況に応じて切羽中心下部に核を残すことで切羽上部崩落の危険性を低減させた。
- 2) トンネル工事施工管理システム CyberNATM を使用した。このシステムはトンネル施工において必要となる測量・計測機能（自動追尾機能付き）が備わっており、手元のタブレット端末を操作するだけで自動測量でき、切羽付近での測量手元作業が無くなり安全にトンネル内作業を行うことができた。



3. その他工夫している点

足場構台上での狭い作業ヤードで重機作業や資材置場がある中、安全通路を視覚的に明確に区画分けすることで、作業員の安全を確保した。

